

鵜住居地区復興まちづくり協議会・地権者連絡会 議事要旨

記

- 日時 平成26年8月10日(日)18時30分～19時40分
- 場所 鵜住居小学校体育館
- 次第

1. 佐々木鵜住居地区復興まちづくり協議会会長代行からの挨拶
古川地権者連絡会会長からの挨拶
市長からの挨拶
2. ラグビーワールドカップ開催都市立候補について
3. 意見交換

現在地区で進めている防潮堤整備や区画整理のスケジュールに、ワールドカップ開催都市に立候補することが影響を与えないか？

→ 防潮堤整備と区画整理は、先ほどの資料にお示ししているスケジュールを目指してやっている状況に変わりありません。今お示ししている目標をいくらかでも縮めることはできないかを市も常々考えていますし、今後もそのように進めていきたいと思えます。

子ども達のこれからのことと説明があったので、教育長にお聞きしたい。ラグビーワールドカップ誘致で、子ども達にどのような将来を考えるのが聞きたい。

→ 子ども達は、大人に迷惑を、親に心配をかけてはいけなないと、一生懸命勉強をし、友達を思い、体力を付けて頑張ってきました。しかし、頑張ることだけでなく、世界や周りの人たちとつながるといふ子ども達の夢・希望を育むことも必要だと思えます。また子ども達は、もっと羽ばたきたいという願いを持っています。世界遺産もそうですが、ラグビーワールドカップ誘致は絶好のチャンスであり、郷土への誇り、自信を持ってもらうために必要であり、これが誘致の一番の狙いです。

先ほど私は、ラグビーワールドカップ誘致で復興促進が図られるという挨拶をしたが、市はどう考えているのか？ 間違いなく復興の後押しになるのか確認をしたい。

(市長)：今回の立候補が復興の後押しになるかですが、私はその通りだと思います。先日国へ統一要望に行きましたが、その際もこういう1つの目標があると、東京にいる人にも伝わりやすいのです。「復興を早く」との要望でも、具体的な目標を掲げると「いつまでに道路、防潮堤を造らなければならない」ことがはっきりとわかります。それが復興の後押しになると思えます。

例えば、JR山田線の復旧も思うように前に進みませんが、これも同じです。一つの目標があれば、それに向けて皆の考えや想いが一つになります。国なのでやってくれると思いつつも、具体的な目標を掲げて取り組む手段が必要だと考えます。国に理解してもらうには、具体的な手段や目標を掲げながらの総合的なお願いが有効であり、そういう意味で今回のワールドカップは復興の後押しになると思います。

ただ、今資材が高騰したり、スケジュールどおり物事が進まない状況です。しかし、頑張らないといけませんから、やはり目標を掲げて、我々は頑張っていくんだということを全国に発信するほうが、釜石のエネルギーにつながると思います。

ラグビーワールドカップの開催都市になるため、2014年7月に釜石市は立候補を表明したが、募集は10月に締め切れ、2015年4月に決定される。48試合を10～12会場で開催するのだが、開催都市の立候補は早かったがこれから4月の決定までの間でのような取組を行うのか？ 4月までで、どのような問題があるかを聞きたい。

→ 2014年10月後半までに開催希望申請書を提出した都市同士で、10～12枠を争います。国立競技場は決まっており、残りは9～11枠ですが、東北で手を挙げているのは仙台と釜石です。届出を見て本部から問い合わせがあったり、関係者が釜石に来たり、もしかしたら国際ラグビー連盟からも人が来る可能性があります。そんなやりとりをして、どこを開催都市にしたいかを2015年1月に日本ラグビー協会と組織委員会で決めます。

その後、ロンドンの本部で決まりますが、その前の日本で決める時にどれだけ釜石がアピールできているかが大事です。そのためにはこの地域の人たちが皆自分のことだと思って何かをし、世界に向けてアピールすることが必要だと思います。例えば、ワールドカップのことでお祭りが盛り上がった、市民が何かイベントをした等を書きたいマスコミの人も多くおられるので、アピールをして、それが記事にされればと思います。財源やインフラは必要ですが、後付であり、釜石の人たちが押していることが一番の選択要素です。鶴住居のお祭りで皆さんにワールドカップのことで盛り上がってもらえれば、一番ありがたいです。

今日初めて小中学校跡地にラグビー場ができる資料を見た。私は賛成だが、この開催年（2019年）に心配されることがある。例えば、一つは駐車場の問題。今は鉄道（JR山田線）がなく、来られる人が5,000人だと50人乗りバスで100台。乗用車で来る人もいるので、駐車場がこの図面では狭いのではないかと。長内川の信号を渡った生活道路との間にも止められるので、その駐車場問題も並行して検討しなければならない。

もう一つ心配なのは、多くのお客さんが来られた時、泊まってもらう旅館とかホテルを運営上どう考えているのか？ 釜石市内をはじめ、宮古市や陸前高田市、遠野市からも考えると、JR山田線が不通のため、1万人は50人乗りバスで200台。その他の乗用車を含めると、この会場ぐらいの駐車場が必要だと思うのだが、どのように考えているのか？

→ ここに描いてある駐車場は、大会運営スタッフ用駐車場であり、お客さん用駐車場はこの敷地内に取れません。今旅行代理店と広告代理店、輸送関係の専門家に話をし、地元旅行業界の人たちにも入ってもらい、輸送計画と宿泊計画を検討しています。現時点であるものと2019年にできているものは少し異なりますが、減らないなかで岩手県内にいろいろな人が泊まる。お客さんだけでなく選手やその関係者も含め、全体計画を検討しています。また、それが組織委員会が見るポイントであり、どういうふうにお客さんを連れてくるか、例えばどこかで車から降ろしてシャトルバスで運ぶ、鉄道が復活すると輸送能力は格段に高まるので、釜石の評価は高くなります。宮古からもライドアンドシャトルなどのイメージ図を描いています。今おっしゃられたとおりのことを検討しており、今度ご相談に行きますので、教えていただければと思います。

ラグビー場までの交通手段が十分では無いなかで、JR山田線は鶴住居－釜石間だけなら大きく壊れていない。そこで、宮古－釜石間の完全開通は無理でも、5分間で移動できる鶴住居－釜石間は開通してもらい、大量に人を輸送できるようにするなど併せて考えてほしい。

（佐々木会長代行）：いろいろな肯定的なご質問、ご意見は、本当に協議会として嬉しいです。まだハードルが高いことは認識しないといけません、組織委員会に「是非とも釜石で」と私たちが望んでいることを理解させなければ釜石は選ばれないと思います。オリンピック等でも誘致の支持率がよく新聞に出ますが、20～30%では話にならず、80～90%の人が釜石でワールドカップが行われることに大賛成であるとアピールする必要があります。また釜石市だけでなく、大槌町・大船渡市・陸前高田市など沿岸地域全部で釜石開催を支持する体制を作ること必要だと思います。

開催される2019年は5年後ですが、ここに向けて防潮堤、水門、JR山田線、高

速高規格道路等に関するゴールも5年後に定まります。これだけできたらワールドカップが行われると、「すごい被害が出た鶴住居地区で開催しました」と全世界に向けて発信されます。その時は「ワールドカップは開催できたけどまちの人たちはどうなったんだ」には絶対にならないと思います。インフラ整備のスピードアップは確実であり、様々な施設、人が集まる世界的イベントを行うことで、鶴住居から離れた人も「鶴住居に戻って一緒に大会を盛り上げたい」という気持ちを持ってもらえる節目、復興の一つの折り返し地点が設けられる気がします。

この5年後は、みんなが仮設から出て復興公営住宅や自立再建住宅に移り住んでいる姿を全世界に発信できるチャンスですし、国も大きな被害を受けたまちが「全世界の支援でこういう大会ができるようになった」と発信したいはずです。次の年に「東京オリンピックで復興した姿を見てください」ではちょっと違うと思います。

多くの小中学生が一生懸命津波から逃げた場所で、こういう大会を行うことの意味を地元の人がしっかり理解することが大切ですし、またオール岩手・東北でやらなければダメだと思います。皆さん方には、未来の子ども達にも重要なポイントだと思うのでご理解いただき、単にラグビーだけを行うのではなく、復興も加速するし、子ども・孫の世代に「ひとつ宝を残してやろう」という話をしてもらえればと思います。

市民の方と話をすると、ラグビー場を造る予算が復興交付金でまかなわれるのではないかと誤解されており、それで反対という方が多い。使うお金が違うので、復興が遅れないこともきちんと説明してほしい。

→ 必要となる12億円は toto くじなども扱っているスポーツ振興センターに、復興交付金とは違うお金をお願いしています。あとは、今後ワールドカップ誘致が決まる際に、寄付を皆様をお願いするか、県、国にもお願いをしますので、復興に用いるお金とは別枠で集める算段をしていることをご理解いただければと思います。

被災者が仮設住宅から出て、公営住宅や自分の住宅で暮らしていればこんなに反対はないかもしれないが、皆が心配するのは「ラグビーワールドカップを行い、終わった後に、釜石の財政が競技場の運営・維持費で圧迫され、自分たちの税金が増えるのではないか」ということである。お母さん達は「人口が減るこれからの財政面で大丈夫なのか」を心配しており、その説明ができれば皆喜んで「いいね」になると思うが、そのあたりはどうなのか？

(山崎副市長)：議会でも同じような質問が出ました。私たちはまちづくりを進める上で、被災で何が足りなくなったかを考えます。公共施設では子ども達のグラウンドや体育館が無くなった訳です。そのため、市としてまずそれを復旧すること、あるいは子ども達の将来を考えた時に、スポーツをする人、見る人のために建てることは義務だとお考えいただきたいです。

今回ワールドカップを誘致しますが、グラウンド等を造るので当然その維持管理費はかかります。大施設を造って無駄になるのではないかと、維持管理費が多くかかるのではないかと皆さんは心配されていると思います。私たちは造る以上、他の大会を誘致したり、合宿など子ども達がスポーツに携われる様々な機会を作り、可能性を追求して具体的、効率的な運営をしなければいけないと思っています。施設を造ることでお金がかかるという話が先行しますが、それを有効活用してお金を生み出すことも必要と考えます。交流人口が子ども達を育てる環境づくりも必要なことをご理解いただければと思います。

(市長)：今日はいろいろなご意見をいただき、ありがとうございました。最後に話が出た財源問題や今後の経営負担がどうなのかは一番の問題であり、皆さんに理解いただけるよう時間をかけて進めていかなければと思いました。

三陸沿岸全てですが、これからの釜石では人口が減ると言われています。JRも山田線復旧は乗る人が減るので造ってもダメと考えているようですが、鉄道が通らないと急速に人口が減り、まちとして機能しなくなることを心配しています。何とかこのまちが人口を維持し、住民が誇りを持って、釜石に来る人にも魅力的に映り、三陸の中で拠点性のある場所にしたいと考えています。釜石市復興まちづくり基本計画でも、そのような目指すべき地域の将来像を掲げており、難しいですが、仮設の人に早く住宅を造ったり、復興公営住宅に入っていたかねばなりません。しかし、それだけで人口が増えるわけではなく、また訪れる人にも釜石は「良いまちだ」と思ってもらえるかはわかりません。

魅力のあるまちづくりを進める中で、このワールドカップが大きな宝になると思います。これを行うことで、道路が整備され、仙台から釜石に2時間、盛岡から1時間ちょっと、花巻から1時間、宮古・大船渡からは30分で来れるようになります。ワールドカップは釜石だけではできないので、宮古や大船渡に泊まり、そこから来ていただくのに鉄道、バスが必要になります。そう考えると釜石は「拠点性のあるまち」として発展する可能性は十分あります。その可能性をつくることにご理解いただきたいです。

簡単に言うと、ワールドカップもできないなら釜石は廃れると思います。それだけ今危機的であり、黙っていたのでは釜石市は成り立ちません。いろいろやらねばなりません。やりすぎれば財源がかかりすぎ、市民に負担がかかるか、もしくは何もできなくなります。ワールドカップのスタジアム維持だけしかできなくなかなかねず、最大限注意せねばと思います。財政計画を立て、皆さんに議論をいただき、最悪の場合にはやめるという判断も必要だと思います。

現状ではワールドカップの開催はプラスになる可能性が非常に大きいと思います。このことで多くの方が釜石を訪れ、住んでいただけ、財源も増えると考えます。これから行政も緻密に計算をし、その都度財政を見ながら計画を立て、皆さんのご意見をいただき、説明しながら進めます。

今日で終わりではなく、立候補を決めただけで、これからいろいろ課題があり、次のまちづくり協議会の時もまたご説明をして、皆さんの意見をお聞きしたいと

思います。今日のところは「まずは財政に気を付けて頑張れ」とのお話だったと思います。

今後まちづくり協議会と協議をしなければならないことが一つあり、学校について復興庁と協議中ですが、資材が高くなり、当初の計画が厳しくなっています。役員の皆さんとすり合わせを行い、ある程度説明できる段階になれば、まちづくり協議会でご説明し、ご意見をいただくようにしたいと思います。今日はありがとうございました。

以上